

日本文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本文学概論	日本近現代文学の世界	2	仁平 政人	前期 金曜日 3 講時	国文学概論
日本文学概論	王朝物語文学の世界	2	横溝 博	後期 金曜日 3 講時	国文学概論
日本文学基礎講読	『平家物語』を読む	2	佐倉 由泰	前期 金曜日 2 講時	国文学基礎講読
日本文学基礎講読	芥川龍之介の歴史小説を読む	2	仁平 政人	後期 金曜日 2 講時	国文学基礎講読
日本文学各論	十四世紀の文学の研究	2	佐倉 由泰	前期 火曜日 2 講時	国文学各論
日本文学各論	十四世紀の文学の研究	2	佐倉 由泰	後期 火曜日 2 講時	国文学各論
日本文学各論	モダニズム文学の諸問題	2	仁平 政人	後期 月曜日 2 講時	国文学各論
日本文学各論	『夜の寝覚』の探究	2	高橋 早苗	前期集中 その他 連講	国文学各論
日本文学各論	日本探偵小説の形成と展開	2	押野 武志	前期集中 その他 連講	国文学各論
日本文学演習	『今昔物語集』の研究	2	佐倉 由泰	前期 木曜日 2 講時	国文学演習
日本文学演習	『今昔物語集』の研究	2	佐倉 由泰	後期 木曜日 2 講時	国文学演習
日本文学演習	近現代文学における「動物」	2	仁平 政人	前期 水曜日 2 講時	国文学演習
日本文学演習	近現代文学における「動物」	2	仁平 政人	後期 水曜日 2 講時	国文学演習
日本文学演習	『浜松中納言物語』の研究	4	横溝 博	後期 月曜日 4 講時 後期 月曜日 5 講時	国文学演習

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB35301 科目ナンバリング：LHM-LIT201J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学概論】

1. 授業題目：日本近現代文学の世界

2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：「子ども」(少年・少女)の表象をテーマとして、明治から第二次大戦後に至るまでの多様な小説・童話を取り上げる。対象とするテキストについて文化的・社会的な文脈を視野に入れて具体的に分析するとともに、テキスト分析の方法についても解説を行う。

毎回の授業の終わりに、授業内容について考えたことや質問を提出してもらおう。次回の授業で、その回答や補足説明も行いながら授業を進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class analyzes various novels and fairy tales written from the Meiji period to the end of World War II, with the theme of "child" (boys and girls) in modern Japan. In the lecture, the target text is analyzed in detail from the perspective of cultural and social context, and the method of the text analysis is also explained.

At the end of each class, students are asked to submit their thoughts and questions about the content of the class.

In the next class, students will be given answers and supplementary explanations.

5. 学習の到達目標：

(1) 日本の近現代文学について、文化的・社会的な文脈を視野に入れて具体的な分析を行うことをとおして、その多様な特質に関する理解を深める。

(2) 作品分析の基本的な方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To deepen the understanding of the diverse characteristics of modern and contemporary Japanese literature through concrete analysis, taking into account the cultural and social context.

(2) To learn the basic methods of analyzing a work.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

*この授業はオンライン(オンデマンド形式)で実施する。

1. ガイダンス

2. 読みのレッスン：宮沢賢治「どんぐりと山猫」

3. 概説 日本近代文学の成立

4. 国木田独歩「春の鳥」

5. 樋口一葉「たけくらべ」①

6. 樋口一葉「たけくらべ」②

7. 森鷗外「最後の一句」

8. 谷崎潤一郎「小さな王国」

9. 志賀直哉「真鶴」

10. 小川未明「金の輪」ほか

11. 横光利一「頭ならびに腹」

12. 佐多稲子「キャラメル工場から」

13. 尾崎翠「アップルパイの午後」

14. 岡本かの子「鯨」

15. 三島由紀夫「詩を書く少年」

(なお、質問への応答、補足説明などによって、予定通りに進まないことがあります。)

8. 成績評価方法：

最終レポート(50%)・平常点(コメントペーパー等の提出物) 50%。

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品について、事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB45301 科目ナンバリング：LHM-LIT201J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学概論】

1. 授業題目：王朝物語文学の世界

2. Course Title (授業題目)：World of Ōchō Monogatari: tales of the Heian and Kamakura periods

3. 授業の目的と概要：日本の物語文学はいつ発生し、いつ終息したのか——。本講義では『源氏物語』に代表される王朝物語文学の成立と展開の様相を、物語文学を取り巻く様々な文芸ジャンルとの相関のもとに、種々の作品テキストを取り上げつつ探っていく。王朝物語の時代は平安から室町と長きにわたるが、とりわけ王朝物語という文芸ジャンルが物語作者の存在意義とも絡んで取り沙汰されるようになる院政期から鎌倉中期を中心に、散逸した物語の資料をも重要な手がかりとしながら、物語文学というコンテンツの消長を探っていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：When did Japanese narrative literature emerge and when did it end? In this lecture, we will explore the development of the Ōchō Monogatari (tales from the Heian and Kamakura periods), such as the Tale of Genji, by examining various texts of the works, in relation to various literary genres surrounding narrative literature. The era of the dynasty tales extends from Heian to Muromachi. We also explore the fate of narrative literature, using lost stories as clues.

5. 学習の到達目標：

(1) 日本の物語文学について、作品もしくはその断片、関連資料の分析を通して、その特質と史的展開に関する理解を深める。
(2) 古典作品を読解・鑑賞するに際しての基本的な知識を習得することで、王朝物語の文化史的意義について把握できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To deepen the understanding of the characteristics and historical development of Japanese literature through the analysis of works or fragments thereof and related materials.

(2) By acquiring the basic knowledge for reading and appreciating classical literature, you will be able to understand the cultural historical significance of dynasty stories.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下は本講義で扱うトピックスを列挙したものであり、実際の授業の順序もしくは進度とは異なる)

- 01 王朝物語史(現存物語、散逸物語)
- 02 前期物語(竹取物語、うつほ物語、落窪物語、住吉物語)
- 03 源氏物語(補作を含む)
- 04 後期物語(狭衣物語、夜の寝覚、浜松中納言物語)
- 05 院政期物語(海人の刈藻、とりかへばや、有明の別れ)
- 06 歴史物語(大鏡、栄花物語)
- 07 物語評論(無名草子、今鏡)
- 08 物語歌合(物語二百番歌合)
- 09 物語歌集(風葉和歌集)
- 10 中世王朝物語(鎌倉時代)
- 11 中世王朝物語(南北朝時代)
- 12 中世王朝物語(室町時代)
- 13 和歌と物語、歴史と物語、物語と絵画
- 14 物語の作者と読者(六条齋院物語歌合)
- 15 王朝物語の終焉(室町時代物語、お伽草子)

8. 成績評価方法：

学期末に提出するレポート[50%]と出席[50%]をもって評価する。なお、毎時間提出するミニツツペーパーの記載内容も、評価の対象とする。

9. 教科書および参考書：

基本的にはプリントを使って授業を進める。参考書は授業の中で随時紹介する。なお、一度配布した資料は繰り返し使用する
ので、毎時間用意すること。樋口芳麻呂編『王朝物語秀歌撰(上) 物語二百番歌合・風葉和歌集上』(岩波文庫、1987)、同
『王朝物語秀歌撰(下) 風葉和歌集下・源氏物語歌合』(岩波文庫、1989)は本講義のバイブル(但し購入を必須とするも
のではない)。

10. 授業時間外学習：作品を通読するのは困難としても、王朝物語史に関しては様々な学術書が存在するので、授業で紹介した
ものも含めて、可能な限り手に取り、概要の把握に努めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義は第3セメスターから連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB35202 科目ナンバリング：LHM-LIT212J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学基礎講読】

1. 授業題目：『平家物語』を読む
2. Course Title (授業題目)：Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”
3. 授業の目的と概要： 文学表現（古文）を読み解くには何に注意し、何に注目し、どのような手順で考察を進めればよいのかということ、『平家物語』の表現の調査、分析、報告、討議を重ねる中で理解して行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand how to think about Japanese classical literature by practicing of reading and interpreting “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)” .
5. 学習の到達目標：
 - (1) 変体仮名の文を読み解けるようになる。
 - (2) 多様な辞書、事典が活用できるようになり、必要な文献も適切に探せるようになる。
 - (3) 写本の文化を理解し、諸本間の本文の相違に注目して、精度の高い表現の読解ができるようになる。
 - (4) 作品を発見的に解釈するためには、表現の細部の読解がいかんたいせつかということ考察の実践を通して理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about Japanese classical literature creatively.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. はじめに一文学表現を読み解くために一
 2. 『平家物語』を読むにあたって
 3. 『平家物語』を読むにあたって
 4. 変体仮名を読むために
 5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

教科書：かな研究会編『実用変体がな』（新典社）
参考書：授業の中で随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

また、各回の講読、考察、意見交換の積み重ねの中で適切な段階を踏んで理解を深めて行く必要があり、そのためにも、必ず応分の予習をして毎回の授業に臨んでもらいたい。予習すべき内容については授業の中で説明するので、第1回の授業から出席し、その内容をよく理解すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB45201 科目ナンバリング：LHM-LIT212J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国文学基礎講読】

1. 授業題目：芥川龍之介の歴史小説を読む

2. Course Title (授業題目)：Read Akutagawa Ryunosuke's Historical novel

3. 授業の目的と概要：「羅生門」(1915 年)を皮切りとして、芥川龍之介は、日本の古典文学を題材とした数多くの小説を執筆している(その総称として、この授業では便宜的に「歴史小説」という用語を用いる)。この授業では、芥川の歴史小説について、典拠との関係をはじめとして、多様な観点からの分析を行う。

受講者は担当する作品について、(1) 基本情報、(2) 先行研究の整理、(3) 典拠との比較、(4) 1～3 を踏まえた考察、の 4 点をレジュメにまとめて、報告を行う。報告と質疑応答を通して、作品に対する理解を深めるとともに、近代文学を研究する基本的な手続きと、分析の視点を身につけることが本講読の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Starting with "Rashomon" (1915), Ryunosuke AKUTAGAWA wrote many novels dealing with classical Japanese literature (As a general term, the term "historical novel" is used for convenience in this class.). In this class, we analyze Akutagawa's historical novels from various perspectives, including the relationship with the original.

Students report by summarizing the following four points: (1) review basic information, (2) overview of previous research, (3) comparison with the original text, and (4) consideration based on 1～3. The purpose of this class is to deepen the understanding of the works through reports and questions and answers, and to acquire the basic procedures for studying modern literature and the perspective of analysis.

5. 学習の到達目標：

- (1) 本文の異同の確認や文献の収集、コンテクストに関する調査など、近代文学研究の基本的な手続きを実践的に学ぶ。
- (2) 近現代文学の特性について理解を深め、小説を分析する視点を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)To learn practically the basic procedures of modern literature research, such as the identification of differences in texts, the collection of literature, and the investigation of contexts. (2)To deepen the understanding of the characteristics of modern and contemporary literature and cultivate the perspective of analyzing novels.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

*この授業はオンラインで実施します。

1. ガイダンス
2. 分析のレッスンー「羅生門」ー
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート (60%)、授業への積極的参加 (40%)

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

Semester : 5 単位数 : 2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB52202 科目ナンバリング：LHM-LIT301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：十四世紀の文学の研究

2. Course Title (授業題目) : Study on literature in Japanese 14th century

3. 授業の目的と概要： 『太平記』の記述の考察を基軸に据えながら、十四世紀の変動期、動乱期とそこに生きる人々の姿を描き出した多様な作品の表現をていねいに読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、それぞれの作品の特質と、十四世紀の変動期、動乱期に特徴的な世界観、人間観、社会認識を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions in Japanese literature works of 14th century, and position their significance widely in the history of culture and society.

5. 学習の到達目標：

(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める（同一テーマで複数回の授業を行う場合を含む）。

- 1 はじめに—『太平記』の時代—
- 2 『太平記』の概要
- 3 『太平記』の成立と諸本
- 4 『徒然草』における〈今〉
- 5 『太平記』の第一部の世界
- 6 『増鏡』の世界
- 7 『太平記』が記す建武の新政

8. 成績評価方法：

学期末に提出してもらおうレポート [60%]・小レポート [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義（十四世紀の文学の研究）は、第6 Semester も連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB62201 科目ナンバリング：LHM-LIT301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：十四世紀の文学の研究

2. Course Title (授業題目)：Study on literature in Japanese 14th century

3. 授業の目的と概要： 『太平記』の記述の考察を基軸に据えながら、十四世紀の変動期、動乱期とそこに生きる人々の姿を描き出した多様な作品の表現をていねいに読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、それぞれの作品の特質と、十四世紀の変動期、動乱期に特徴的な世界観、人間観、社会認識を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions in Japanese literature works of 14th century, and position their significance widely in the history of culture and society.

5. 学習の到達目標：

(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める（同一テーマで複数回の授業を行う場合を含む）。

- 1 『太平記』の第二部の世界
- 2 『梅松論』の世界
- 3 『太平記』の第三部の世界
- 4 『太平記』の終幕のあり方を考える
- 5 京極派の和歌
- 6 十四世紀の文芸としての『太平記』

8. 成績評価方法：

学期末に提出してもらおうレポート [60%]・小レポート [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義（十四世紀の文学の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB61201 科目ナンバリング：LHM-LIT301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：モダニズム文学の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese modernist literature

3. 授業の目的と概要：この講義では、1920～30 年代の日本におけるモダニズム文学の多様な展開について、川端康成をはじめとした、代表的な作家のテキストの分析を通して検討を行う。特に、前衛芸術や映像メディア（写真、映画）、精神分析学などの同時代の文化的・社会的な文脈との関わりを通して、新たな表現がどのように生み出され、そこにいかなる意義が見出されるかに注目する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this lecture, we examine the various developments of modernist literature in Japan from the 1920's to the 30's through an analysis of the texts of representative authors such as Yasunari Kawabata. In the lecture, we particularly focus on what new expressions authors have created through their involvement in contemporary cultural and social contexts, such as avant-garde art, visual media (Pictures, movies), and psychoanalysis, and what implications they find.

5. 学習の到達目標：

文学テキストを、社会的・文化的なコンテキストとの関わりを視野に入れて多面的に読み解く能力を養い、近現代文学の特性や意義について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To cultivate the ability to read and understand literary texts in a multifaceted manner, taking into consideration their relationship with social and cultural contexts, and to deepen the understanding of the characteristics and significance of modern literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

*この授業はオンラインで実施します。

授業は次の順に進める。(同一テーマで複数回の授業を行う場合を含む)

1. イントロダクション —モダニズム文学とは何か？
2. 関東大震災と文学の変容
3. 「新感覚派」という現象
4. 写真と文学—川端康成の場合—
5. 川端康成と映画—『狂つた一頁』から『雪国』へ—
6. 「心」を捉え直す —フロイト・ブームから新心理主義へ—
7. 戦略としての「少女」—尾崎翠の文学—

8. 成績評価方法：

最終レポート (50%)、平常点 (コメントペーパーなど) 50%。

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については教室で指示する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読み、考察を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：5 単位数：2

担当教員：高橋 早苗

コード：LB98802 科目ナンバリング：LHM-LIT301J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『夜の寝覚』の探究

2. Course Title (授業題目)：Study on "Yoru no Nezame"

3. 授業の目的と概要：平安時代後期に成立した『夜の寝覚』は、ある特徴のためにあまり光が当てられない時期があったものの、現在では多くの読者を惹きつけている。本授業では、『夜の寝覚』第一部を丹念に読み進める形をとりながら、作品の構造・表現へのこだわり・人物造型・先行作品の受容など、複数の観点によって作品を検討・分析する。これらを通じて、『夜の寝覚』という作品がいかに独自の世界を創り上げていったかを明らかにする。『夜の寝覚』の魅力に少しでも迫りたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)："Yoru no Nezame," written in the latter half of the Heian period, has attracted many readers, although it was sometimes not exposed to much light. In this class, while carefully reading the first part of "Yoru no Nezame", we will examine and analyze the work from various perspectives such as the structure of the work, attention to expression, character modeling, and acceptance of past works. Through these, I would like to clarify how the literary work "Yoru no Nezame" creates a unique world, and approach the charm of "Yoru no Nezame" as much as possible.

5. 学習の到達目標：

①古典文学研究に有効な複数の観点（表現・人物造型・受容など）を実践的に理解する。

②『夜の寝覚』の文学史上における位置づけや、現存する平安後期物語の特質を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1) Practically understand multiple viewpoints (expression, character modeling, acceptance, etc.) that are effective for classical literature research.

2) Understand the position of "Yoru no Nezame" in literary history and the characteristics of the existing late Heian period story.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 平安時代文学史概論
2. 平安後期物語について
3. 『夜の寝覚』読解—冒頭場面
4. 『夜の寝覚』読解—天人の予言①
5. 『夜の寝覚』読解—天人の予言②
6. 『夜の寝覚』読解—男君、登場
7. 『夜の寝覚』読解—それぞれの思惑
8. 『夜の寝覚』読解—恋慕と動揺
9. 『夜の寝覚』読解—真実を知る日①
10. 『夜の寝覚』読解—真実を知る日②
11. 『夜の寝覚』読解—中の君の思いと再会
12. 『夜の寝覚』読解—姉・大君
13. 『夜の寝覚』読解—ふるさとをあとにして
14. 『夜の寝覚』読解—その後
15. 総括

(順序や内容は場合によって変更することがあります)

8. 成績評価方法：

①各回講義後に提出を求める小レポート(40%)と②最終レポート(60%)

9. 教科書および参考書：

こちらで用意したプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：平安後期の文学作品にどんなものがあるか調べる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：2

担当教員：押野 武志

コード：LB98803 科目ナンバリング：LHM-LIT301J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本探偵小説の形成と展開
2. Course Title (授業題目)：Formation and development of Japanese detective novels
3. 授業の目的と概要：日本における探偵小説の成立と展開を戦後から今日に至るまで通史的に辿る。大衆文学／純文学の線引きと再編の過程における探偵小説というジャンルの形成要件、探偵小説の形式化・理論化に伴う諸問題、隣接する諸ジャンルや視覚メディアとの相互交渉などを視野に収めながら、新興ジャンルとしてのミステリの様相を多角的に検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, we will trace the generation and development of detective novels in Japan from the postwar period to the present day. Focusing on the role of detective novels in the process of reorganization of popular literature and pure literature, problems associated with the theorizing of detective novels, and mutual negotiations with other genres, we will examine the aspect of mystery as an emerging genre from various angles.
5. 学習の到達目標：
日本の探偵小説の歴史を学びながら、文学テキストと歴史的なコンテキストとの相互葛藤的な関係性を理解し、文学研究の対象と方法論を見直すことを目指す。さらに、本格探偵小説のゲーム性やトリックといった論理的な思考法と引用やパロディといった小説美学との関係性を理解し、言語芸術としての探偵小説の特質を捉え直す。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：While studying the history of Japanese detective novels, we aim to understand the complex relationship between literary texts and historical contexts, and to reconsider the objects and methodologies of literary research. Furthermore, we will understand the relationship between the logical way of thinking of detective novels and novel aesthetics such as quotations and parodies, and recapture the characteristics of detective novels as linguistic art.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス——日本における西欧探偵小説受容
本講義の目的と概要を提示する。また、戦後の本格ミステリブーム以降のミステリ史を展望するにあたって、その前史と西欧における探偵小説の成立の背景を概観する。
 - 2 本格と変格の闘争
戦前の江戸川乱歩の本格から変格ミステリへの転回や、探偵小説芸術論争などを追いながら、日本のミステリ成立の特殊性を考察する。
 - 3 戦後本格ミステリ再検討
横溝正史・坂口安吾らの本格ミステリの特質を検討する。
 - 4 戦後文学としてのミステリ
戦争という大量死の経験がミステリに与えた影響力の射程を考える。乱歩を痛烈に批判した、天城一のミステリ観とその実践をみる。田村隆一をはじめとした『荒地』派詩人たちのミステリ観と詩作との関係性についても言及する。
 - 5 読者への挑戦①
叙述トリックの実践例に関する小レポートを課す。
 - 6 松本清張の登場
清張の諸作品から、社会派ミステリの特質とその影響力について考察する。
 - 7 純文学変質論争の周辺
清張評価に関するミステリと純文学をめぐる新たな再編の動きを、横光利一「純粹小説論」から辿り直す。
 - 8 アンチ・ミステリの系譜
中井英夫『虚無への供物』の一つの到達点を明らかにする。後続の竹本健治『匣の中の失楽』などと共に、ミステリの形式化とメタミステリへの志向性を考察する。
 - 9 新本格以降の展開
島田荘司『占星術殺人事件』以降の本格ミステリ再評価の流れを追う。東野圭吾・綾辻行人・折原一・法月綸太郎・有栖川有栖・宮部みゆき・北村薫・山口雅也・我孫子武丸らのデビュー作を概観する。
 - 10 読者への挑戦②
叙述トリックの実践例に関する小レポートを課す。
 - 11 京極夏彦以後
京極夏彦『姑獲鳥の夏』の衝撃と、その流れをくむメフィスト賞受作家(清涼院流水・舞城王太郎・佐藤友哉・西尾維新ら)の特質を分析する。
 - 12 本格形式の臨界点
「後期クイーン的問題」と命名された、ミステリにおける「ゲーデル問題」を、探偵像の変容から再検討する。
 - 13 フラット化するミステリ
オタク文化とミステリとの親和性やSFの設定・特殊ルール下におけるミステリの登場の背景を探る。グローバリズムにおけるミステリの位置づけと役割について考察する。

1 4 村上春樹とハードボイルド

日本におけるハードボイルド受容の特殊性を、村上春樹作品を通して考える。

1 5 総括——震災後文学としてのミステリ

本講義を総括する。また、3.11以降のミステリの想像力の行方について新たな展望を拓く。

8. 成績評価方法：

授業への参加態度 (30%)・レポート (70%)

9. 教科書および参考書：

教科書：指定しない。

参考書：押野武志他共編『日本探偵小説を読む』(2013年、北海道大学出版会)、同『日本探偵小説を知る』(2018年、北海道大学出版会)

1 0. 授業時間外学習： 講義で取り上げる予定の作品・資料は、事前に提示するので、各自熟読した上で講義に臨むこと。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB54202 科目ナンバリング：LHM-LIT317J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国文学演習】

1. 授業題目：『今昔物語集』の研究
2. Course Title (授業題目)：Study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『今昔物語集』についての考察の実践を通して理解して行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will understand what to think creatively about literature, culture and society by practicing the study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集) .
5. 学習の到達目標：
文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 『今昔物語集』についての解説
 2. 『今昔物語集』についての解説
 3. 『今昔物語集』についての解説
 4. 『今昔物語集』についての解説
 5. 『今昔物語集』についての解説
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 成績評価方法：
授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：
テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習（『今昔物語集』の研究）は、第6セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB64202 科目ナンバリング：LHM-LIT317J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国文学演習】

1. 授業題目：『今昔物語集』の研究
2. Course Title (授業題目)：Study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『今昔物語集』についての考察の実践を通して理解して行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand what to think creatively about literature, culture and society by practicing the study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集) .
5. 学習の到達目標：
文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：
テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習（『今昔物語集』の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB53202 科目ナンバリング：LHM-LIT317J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国文学演習】

1. 授業題目：近現代文学における「動物」

2. Course Title (授業題目)：Study on "animal" in Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、「動物」の表象という観点を軸に、多様な社会的・文化的なコンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels written from the Meiji period to recent years, taking into account various social and cultural contexts, based on the concept of "animal".

Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.

5. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.

(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はオンラインで実施する。

1. ガイダンス
2. ガイダンス 2
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本演習は第 6 セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB63202 科目ナンバリング：LHM-LIT317J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国文学演習】

1. 授業題目：近現代文学における「動物」

2. Course Title (授業題目)：Study on "animal" in Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、「動物」の表象という観点を軸に、多様な社会的・文化的コンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels written from the Meiji period to recent years, taking into account various social and cultural contexts, based on the concept of "animal".

Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.

5. 学習の到達目標：

(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。

(2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.

(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業はオンラインで実施する。

1. ガイダンス

2. 担当者による口頭発表と討論

3. 担当者による口頭発表と討論

4. 担当者による口頭発表と討論

5. 担当者による口頭発表と討論

6. 担当者による口頭発表と討論

7. 担当者による口頭発表と討論

8. 担当者による口頭発表と討論

9. 担当者による口頭発表と討論

10. 担当者による口頭発表と討論

11. 担当者による口頭発表と討論

12. 担当者による口頭発表と討論

13. 担当者による口頭発表と討論

14. 担当者による口頭発表と討論

15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)

9. 教科書および参考書：

テキストとして配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本演習は第 5 セメスターから連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時、後期 月曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：4

担当教員：横溝 博

コード：LB61402(4 講時)、LB61502(5 講時)※両方履修すること。 科目ナンバリング：LHM-LIT317J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国文学演習】

1. 授業題目：『浜松中納言物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：Study of "Hamamatsu Chūnagon Monogatari"

3. 授業の目的と概要：『浜松中納言物語』を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, you will read the volume captioned from "Hamamatsu Chūnagon Monogatari". The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：

『浜松中納言物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By carefully reading "Hamamatsu Chūnagon Monogatari", you will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the structure of the story. Learn how to use various annotations and various dictionaries, and acquire basic knowledge related to reading comprehension of works. Through the above, by improving the ability to "read" the story, you will acquire the basic knowledge and skills to tackle the problem researchfully.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

01. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
02. 講義 (『浜松中納言物語』の成立、散逸首巻の内容、諸本、影響作について)
03. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
04. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
05. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
06. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
07. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
08. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
09. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 巻二の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 巻二の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [60%]、授業への参加 (質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】池田利夫校注・訳『新編日本古典文学全集 27 浜松中納言物語』(小学館、2001 年)を用いる。

【参考書】辛島正雄『御津の浜松一言抄 — 『浜松中納言物語』を最終巻から読み解く —』(九州大学出版会、2015 年)。また、

神田龍身『平安朝物語文学とは何か:『竹取』『源氏』『狭衣』とエクリチュール (MINERVA 歴史・文化ライブラリー 36)』
(ミネルヴァ書房、2020年)。その他、校本、研究書の類、参考文献は随時紹介する。

10. 授業時間外学習: 毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他: なし

- ・本演習は、第5 Semesterと第6 Semesterを合体して、後期開講の授業としています。そのため、2時間とも連続して履修してください。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていきます。